

第32回院内学術研究発表会

令和2年1月30・31日

1. トモシンセシス（3Dマンモグラフィ）で

病変が鮮明に見えた症例

放射線技術部

竹中也次美 染川 紗弓

福田 和子 井手 充浩

マンモグラフィでは、乳房内の乳腺量・密度を以て、「高濃度」「不均一高濃度」「乳腺散在」「脂肪性」の4段階に分類する。高濃度・不均一高濃度乳房は「乳腺濃度が高い」と評価され「デンスブレスト」と呼ぶ。日本人を含むアジア女性は、欧米人と比較してデンスブレストの方が多いとされている。特に若年者（20～40歳代）では多くみられる傾向がある。

マンモグラフィでは乳腺実質も病変（腫瘍・石灰化等）も白く写る。乳腺が多い程、病変が隠れてしまうので、デンスブレストは病変発見が難しい。

当院のマンモグラフィ装置は、トモシンセシス機能（3Dマンモグラフィ）が搭載されている。乳房の断層画像が得られる技術で、乳腺に埋もれた病変を発見することができる。通常のマンモグラフィ画像では見えにくかった病変が、デンスブレストであってもトモシンセシスによって鮮明に見えた症例を紹介する。

2. アルカプトン尿症による強直脊椎骨折の一例

リハビリテーション科・整形外科

○生田 雅人 高橋 惇司

濱本 秀一 村田 洋一

川島 邦彦 松岡 孝志

阪上 彰彦 田中 正道

青木 康彰

【目的】アルカプトン尿症は黒色尿、色素沈着、関節症を主な兆候とする常染色体劣性遺伝の代謝性疾患である。脊椎においては椎間板の石灰化をきたし、次第に椎体間が癒合し強直脊椎となる。今回我々は、アルカプトン尿症による強直脊椎の骨折を来した一例を経験したので報告する。

【症例】79歳女性。人工股関節全置換術の手術歴あり、その際にアルカプトン尿症の診断。自宅のベッドから落ち、体動困難となり同日当院救急搬送となった。受診時腰椎レベルに強い背部痛を認めた。腰椎X線では胸椎から仙骨までの強直脊椎があり、L2/3での椎体間離開を認め、強直脊椎骨折と診断した。受傷後6日目には疼痛改善し歩行器歩行可能となった。

【考察】強直脊椎に伴う骨折は、転位しやすく神経学的予後が不良であるため、可能であれば手術加療が望ましい。今回、手術により早期の離床が可能であった。

3. 抗凝固療法中の前立腺肥大症患者に対する経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）の有用性について

泌尿器科

藤本 卓也 戸邊 泰将

安野 恭平 西川 昌友

原口 貴裕 小川 隆義

【背景】当科では前立腺肥大症の手術療法として経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）を行っている。出血が少ないことが